

平成 21 年 11 月 12 日

## 平成 22 年 3 月期第 2 四半期の業績に関するお知らせ

当社は、本日平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算短信を発表しましたのでお知らせします。また、同時に四半期報告書を提出いたしましたので併せてお知らせします。

主な内容は以下の通りです。

### 第 2 四半期累計期間比較

(単位：千円)

期間	売上高	売上総利益	研究開発費	営業利益	経常利益	当期利益
2008/4/1 ~ 9/30 (前期上期)	3,571,042	2,367,482	764,504	1,212,916	1,241,708	790,842
2008/10/1~2009/3/31 (前期下期)	2,422,657	1,532,563	887,083	255,649	190,244	145,280
2009/4/1 ~ 9/30 (当期上期計画)	2,022,655	1,401,821	707,028	337,711	335,898	395,158
<b>2009/4/1 ~ 9/30 (当期上期実績)</b>	<b>2,038,647</b>	<b>1,420,851</b>	<b>711,760</b>	<b>335,013</b>	<b>326,361</b>	<b>382,185</b>
増減 (対計画)	15,992 0.8%	19,030 1.3%	4,732 0.7%	-2,698 -0.8%	-9,537 -2.9%	-12,973 -3.4%
増減 (対前年同期)	-1,532,395 -42.9%	-946,631 -40.0%	-52,774 -6.9%	-877,903 -72.4%	-915,347 -73.7%	-408,657 -51.7%

四半期実績推移

(単位：千円)

期間	売上高	売上総利益	研究開発費	営業利益	経常利益	当期利益
2008/4/1 ~ 6/30	2,156,967	1,430,351	267,499	966,531	998,646	590,112
2008/7/1 ~ 9/30	1,414,074	937,130	497,005	246,384	243,062	200,730
2008/10/1 ~ 12/31	1,322,326	829,343	417,152	215,001	137,900	110,951
2009/1/1 ~ 3/31	1,100,331	703,219	469,930	40,647	52,343	34,329
2009/4/1 ~ 6/30	1,036,825	738,399	334,883	231,057	229,643	328,372
<b>2009/7/1 ~ 9/30</b>	<b>1,001,821</b>	<b>682,451</b>	<b>376,877</b>	<b>103,956</b>	<b>96,718</b>	<b>53,812</b>
増減 (対前年四半期)	-412,253 -29.2%	-254,679 -27.2%	-120,128 -24.2%	-142,428 -57.8%	-146,344 -60.2%	-146,918 -73.2%
増減 (対直前四半期)	-35,004 -3.4%	-55,948 -7.6%	41,994 12.5%	-127,101 -55.0%	-132,925 -57.9%	-274,560 -83.6%

経営成績、財政状態について

・当第2四半期累計期間(2009年4~9月)の業績は、売上高 2,038 百万円（前年同期比 3,571 百万円、42.9%減）、経常利益 326 百万円（同 1,241 百万円、73.7%減）、純利益 382 百万円（同 790 百万円、51.7%減）となりました。また、2009年8月13日に発表した当期の業績予想の修正に関するお知らせに記載の予想値と比較した達成率はそれぞれ、売上高が 100.8%、営業利益が 99.2%、経常利益が 97.1%、純利益が 96.6%となっており、いずれも当社予想の範囲内でした。

・当第2四半期累計期間と前年同期との減収減益の主な原因は、前年同期は Amitiza®カプセルの特別出荷（適応追加承認にともなう初期出荷）があり、1,850 百万円の売上高であったのに対し、当第2四半期は在庫調整中のため、538 百万円の売上高にとどまったことによります。レスキュラ®点眼液 0.12%の売り上げは、前年同期比 15.6%減の 1,372 百万円でした。

・当第2四半期会計期間(2009年7~9月)と直前四半期会計期間(2009年4~6月)と比べ、減収減益の主な要因は、Amitiza®カプセルの売上に占める割合が高くなったことによる原価率の上昇及び研究開発費が増加したことによります。また、レスキュラ®点眼液の米国、カナダでの販売承認および販売権をスキャンポファーマアメリカズ インク社 (Sucampo Pharma Americas, Inc. : Sucampo Pharmaceuticals, Inc.社の100%子会社)に譲渡したため、その契約一時金として受領した300万ドル(290百万円)を当第1四半期に特別利益として計上しております。

・当第2四半期会計期末の財政状態は、流動資産5,074百万円(前期末5,201百万円)、固定資産2,296百万円(同2,641百万円)、流動負債771百万円(同763百万円)、固定負債439百万円(同869百万円)、純資産6,160百万円(同6,210百万円)で、自己資本比率は83.6%(同79.2%)でした。

・当第2四半期会計期末の現金および現金同等物は、2,641百万円(前期末2,387百万円254百万円増)となっております。貸出コミットメントラインは前期末の3,000百万円から300百万円増額し、3,300百万円となっております。一方、長期借入金の残高は、500百万円でしたが、当第2四半期会計期間中に完済し、有利子負債はありません。

#### 経営に関する最新情報(平成21年7月1日から現在まで)

・平成21年7月16日、当社は男性型脱毛症治療薬として開発中のRK-023に関して第1相臨床試験結果を発表しました。その結果、予定通り第2相臨床試験に進むことになりました。

・平成21年7月21日、当社は経営の効率化を目的とした新組織を発表しました。新組織では、代表取締役社長を議長とする経営会議の諮問・提言機関として、Medical Advisory Boardを置き、医療現場からの意見や提言を経営に取り込むことによって、より一層現場の声を反映した医薬品の開発と販売を目指すこととなりました。

・平成 21 年 7 月 29 日、当社は、重点領域である眼科、皮膚科領域での研究開発品目（パイプライン）を発表しました。開発コード、UF021、RTU-007、RU-10、RK-023、RTU-1096 の 5 個の新規化合物をパイプラインとしてピックアップし、臨床開発を進めることを正式に決定しました。詳細については、当社ホームページ上の <http://rtechueno.com/company/business/business.html> をご参照ください。

・平成 21 年 8 月 20 日、当社は、1 株当たりの投資金額を引き下げ、株式の流動性の向上および投資家層の拡大を目的として、平成 21 年 10 月 1 日付で 1 株を 2 株にする株式分割を行っております。詳細については、当社ホームページ上の [http://www.rtechueno.com/investor/press/pdf/090820\\_ir.pdf](http://www.rtechueno.com/investor/press/pdf/090820_ir.pdf) をご参照ください。

・平成 21 年 8 月 25 日、当社は、網膜色素変性に対する UF-021 0.15% 第 2 相臨床試験の症例登録が完了したことを発表いたしました。すでに実施している試験の結果からも重大な副作用の報告はなく、中止例も少なく、極めて順調に進行しております。来春には試験を完了し、速やかにデータ解析評価を行ってまいります。

・平成 21 年 9 月 8 日、当社は、Sucampo Pharmaceuticals, Inc. が EU 地域における 100% 子会社 Sucampo Pharma Europe, Ltd. が EU 地域での慢性特発性便秘症治療薬（Amitiza®カプセル）の販売承認申請を取り下げたことを受け、当社の当期業績に与える影響は軽微であることを発表しました。

・平成 21 年 9 月 10 日、当社は、Medical Advisory Board のメンバーが決定したことを発表いたしました。Board メンバーは眼科領域の各分野を代表する 10 名の先生方です。詳細については、当社ホームページ上の [http://www.rtechueno.com/investor/press/090910\\_pr\\_jp.pdf](http://www.rtechueno.com/investor/press/090910_pr_jp.pdf) をご参照ください。

・平成21年10月6日、当社は、男性型脱毛症に対するRK-023の前期第2相臨床試験を開始したことを発表いたしました。今後迅速に開発を進めるとともに、国内外での提携交渉を進めていく予定です。

本日、平成22年3月期第2四半期決算短信および四半期報告書について、経営陣を代表して当社代表取締役社長 真島行彦は、以下のコメントを発表しました。

「当社は本日、当期第2四半期の決算短信を発表しましたが、8月13日に発表した業績予想の修正における予想値とくらべても想定範囲内で順調に推移していると考えております。

現在の当社が研究開発を進めている開発パイプラインの中でRK-023はPhase2を開始したところですが、先日のプレスリリースでも発表いたしましたとおり、国内外の提携交渉を積極的に進めてまいります。

眼科・皮膚科に特化したグローバルな医薬品会社として、5品目の新薬候補（パイプライン）の開発を進めるとともに、医師の目線にたった総合的な医療サービスが提供できるユニークな会社を目指します。」

以 上